

足元から織りなす時代

カーペット製造大手の住江織物(大阪市中央区)は、今年で創業140年を迎える。手織りの敷物を帝國議会議事堂に納めたのを皮切りに量産化し、新幹線や自動車のシート地なども開発し、日本の近代化と高度経済成長を足元から支えてきた。敷物文化のフロンティアとして、何を目指しているのかを永田鉄平社長(66)に聞いた。

【安部拓輝】

けいざい 最前線

創業の起源を教えてください。

◆明治政府が近代化を推し進めていた1883(明治16)年、創業者の村田伝七(はつしち)の手機を買って手織り織造の研究を始めました。江戸時代に中東を起源として佐賀・鍋島藩に伝来した手織りじゅうたんは堺などで生産されていましたが、これを機械化したのが村田です。

政府からの用途で百貨店の高島屋から発注を受けたのが帝國議会議事堂のじゅうたんです。その実績が現在の国会議事堂の赤じゅうたんなどに継承されています。ドイツなどから自動織機が導入され、

創業140年 敷物の先駆者

本会議場の椅子の座面や国鉄車両のシート地に使われたモケットへと製品の幅は広がりました。

◆和式の畳から西洋式の床へ。日本人の足元から文明開化を起したのです。

◆国鉄の上等座席や船舶の1等客室には輸入品が使われていましたが、当社はこれらを国産化する使命を担っていました。戦後は自動車需要が伸びて内装材を全てのメーカーに提供するようにになりました。

高級品だったカーペットを4畳半の部屋に敷けるように、サラリーマンの係長が1回のボーナスで買える値段で発売したのが私生まれた1957年です。白黒テレビが普及し始めた時代で、年配の方は「住江カーペット」とんでみな はねてみな 三べん回ってカーペット」というコマーシャルを覚えているかもしれませんね。

住江織物 永田鉄平社長



ながた・てっぺい 大阪府出身。関西学院大経済学部を卒業後、1980年に入社。インテリア事業部門長などを経て2021年から現職。

◆経済成長期には他にどんな製品を開発しましたか。

◆私が入社した80年にはオフィスのフロアで汚れた部分だけ張り替えられるタイルカーペットを国内で初めて生産しました。ライフスタイルの変化に応じた製品を生み出すだけでなく、資源を有効活用する技術も開発してきました。使用済みペットボトルから再生した糸を使い始めてもう30年になります。循環型事業への転換を図りました。



住江織物が納入している衆議院本館のじゅうたん(17年12月、同社提供)

◆2011年には、タイルカーペットの裏材の塩化ビニールをパウダーにして再生したE-COS(エコス)を開発しました。現在は全てのタイルカーペットがエコスです。

住江織物 米穀商の村田伝七が1883年に住吉村(現大阪市住吉区)で始めた手織り敷物が評判となり、業容を拡大。大阪や京都をはじめ、市章をデザインした路面電車のシート地は全国的なブームとなった。1913年に合資会社が創立され、30年に株式会社化。近年は使用済みのタイルカーペットを再生するリサイクルシステムを確立し、第4回エコプロアワードで経済産業大臣賞を受賞した。2022年5月期連結決算の売上高は817億円。従業員数2640人。

再生材比率は7割程度でしたが、素材が違えば表面にも再生素材を用いることで8割以上に引き上げた新シリーズを23年3月に発売しました。品質はもちろん、製造コストもスビードも従来と同じです。回収事業者と連携し、再生原料の安定供給と調達コストを抑えることでリサイクルシステムを確立し、持続可能なビジネスとして軌道に乗せました。ロシアのウクライナ侵攻で石油由来の原材料は何割も値上がりしています。再生原料で環境負荷を減らすことが製造コストの抑制につながっています。

◆現在ほどどんな課題意識を持っていますか。

◆住宅やビルを解体した時に出る産業廃棄物の処理は重要課題の一つです。石油由来の内装材はタイオキシンが発生しないように800度以上で燃やす必要がありますが、それに対応した焼却炉を持つ自治体は少なく、多くが埋め立て処分されています。近畿圏ではあと十数年で最終処分場が満杯になるという見方もあります。

私たちは、古くなったら捨てる」という社会概念を変えたい。循環可能な製品に変えるだけでなく、品質を保つことも重要です。良いものを長く使い、その上で再び新たな製品に作り替えていく。そんな技術革新と新たな製品の開発に挑んでいきたいと考えています。

聞かす

SDGs(持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・企業統治)投資を意識した企業活動が求められている。日々の生活を快適にするだけでなく、二酸化炭素(CO₂)の排出を減らし環境負荷を抑えることが必然の時代となったが、住江織物は約30年前に使用済みペットボトルから再生した糸を使って製品化してきた。コストの壁を越える技術革新で国産じゅうたんを生み出して一般家庭に普及させたフロンティア精神に通じる。循環型経済の先駆者と言えるだろう。